

SAISON REVUE

Hibrid-Turf Magazine ● セゾン・レビュー [別冊]

2013 vol. 16 増刊号



おかげさまで30周年、オムニはテニスコートの代名詞。

日本のテニス環境を変えたロングセラー商品「オムニコート」が、2013年に発売30周年を迎えます。

これを機に、1983年の正式発売開始にいたる秘話や苦労話をはじめ、初期に施工させていただいた、名門テニスクラブからの貴重なお話や現在使用していただいている、指導者の方からの熱いコメントなど、

過去から現在に至る「オムニコート」に関する話題を集めた記念誌を、発行する運びとなりました。

今や砂入り人工芝の代名詞となった「オムニコート」の歴史の数々と、さらに発展していく未来の情報を、
テニスを愛するすべての皆さんにお届けいたします。



HISTORY OF OMNICOURT

オムニコート30年の歩み

1981

- 1月 テニスコート用砂入り人工芝の海外情報入手、調査実施
- 5月 オーストラリアでの調査をもとに、同タイプ商品の日本市場導入を検討
- 7月 特許に関する交渉開始
- 10月 歴史調査
オムニコートでプレーする
ケン・ローズウォール氏（オーストラリア）



1982

- 1月 生産準備整う
- 6月 SRI 加古川工場バレーコート
- 7月 軽井沢プリンスホテル施工
- 10月 オムニ社と正式契約
芦屋ローンテニスクラブ施工



1983

- 1月 「オムニコート」の正式発売
全国規模で販売開始
販売当初は、甲子園テニスクラブなどの有名な民間テニスクラブや軽井沢や品川などのプリンスホテル施設で実績を積み重ねる。



1984

- 神戸市の総合運動公園で、「85ユニバーシアード大会用のコート（オムニコート16面）を施工。リハーサル大会としての「アジアアマ大会」、翌年の本番の成功で、民間、公共を問わず、一気にブレイクした。



1986～

- '86年に特許権利期間が終了したため、従来の人工芝メーカーなど多くの競合が市場参入したが、「砂入り人工芝」のパイオニアとしての知名度は高く、施設管理者やプレーヤーには「砂入り人工芝」＝「オムニコート」という強い認知を得ていたので、トップシェアを維持、業界をリードした。 備前テニスセンター（岡山県）



2009

- 3月 高耐久仕様
「オムニコートXP」
発売



Omnicourt XP

高木学園女子高等学校（神奈川県）

今までのご愛顧に感謝するとともに、これからの「オムニコート」にもご期待ください。

今から30年前の1983年（昭和58年）3月9日、日本で初めての砂入り人工芝「オムニコート」が正式に発売されました。

クレーコートやハードコートにとって代わる第三世代のコートとして北米やオーストラリアで普及し始めた砂入り人工芝で、プレー性と全天候性を兼ね備えた画期的なテニスコートとして、爆発的な売れ行きを示し、瞬く間に全国に広がりました。

維持管理の手間を大幅に軽減したことや、見た目の美しさも普及に拍車をかけたとされ、「オムニコート」といえば、砂入り人工芝、あるいはテニスコートの代名詞と言われるようになりました。

これまでの30年の実績と経験をもとに、これからの30年もまた、皆様とともに新しいテニスコートづくりを進めて参ります。

平成25年3月9日

住友ゴム工業株式会社
ハイブリッド事業本部
インフラビジネスチーム
人工芝事業統括
西田 三智男

「砂入り人工芝」との出会いと オムニコートの誕生。

ユニバーシアード神戸大会（1985年）



住 友ゴムが日本初となる砂入り人工芝のテニスコート「オムニコート」を発売したのは1983年のこと。それまで日本のテニスコートのほとんどはクレーコート（土質）と、ハードコート（コンクリート質）でした。クレーコートは柔らかく足腰に優しいものの、雨が降ると泥のようにぬかるみ、メンテナンスに手間がかかるという欠点があり、水はけのいいハードコートも、雨で滑りやすいという危険がありました。プレー性とメンテナンス性を両立する「第三のコート」が待望されていたことを背景に、「人工芝のテニスコート」を開発する機運が生まれたのです。

現在のオムニコートの原型になったのは、アメリカのオムニ社が製造し、アメリカ、カナダ、オーストラリアで販売がスタートしていた砂入り人工芝のテニスコートです。毛足の長い人工芝の間に細かい砂を充填したこのコートは、英國式の天然芝コートが愛好されるオーストラリアでまず受け入れられ、シドニー出身の伝説的なテニス選手、ケン・ローズウオール氏のコートにも早期に導入されていました。天然芝を思わせる美しさ、クレーコートのような柔らかさ、ハードコートのようなメンテナンス性のよさ……。従来のテニスコートの欠点を補い、長所を合わせ持つ画期的な商品でした。

当社は、アメリカの展示会「全米テニスショー」でオムニ社の人工芝のサンプルを発見すると、すぐに同社とコンタクトを取つて現地視察を実施。原料輸入や施工につわる技術提供を受けるための契約を結びました。同時に日本での特許使用権も取得し、改めて「オムニコート」と命名。国内市場への導入に本格的に取り組むことになったのです。



Omnicourt NOW & THEN

Talk about Omnicourt

■ Omnicourtについて①

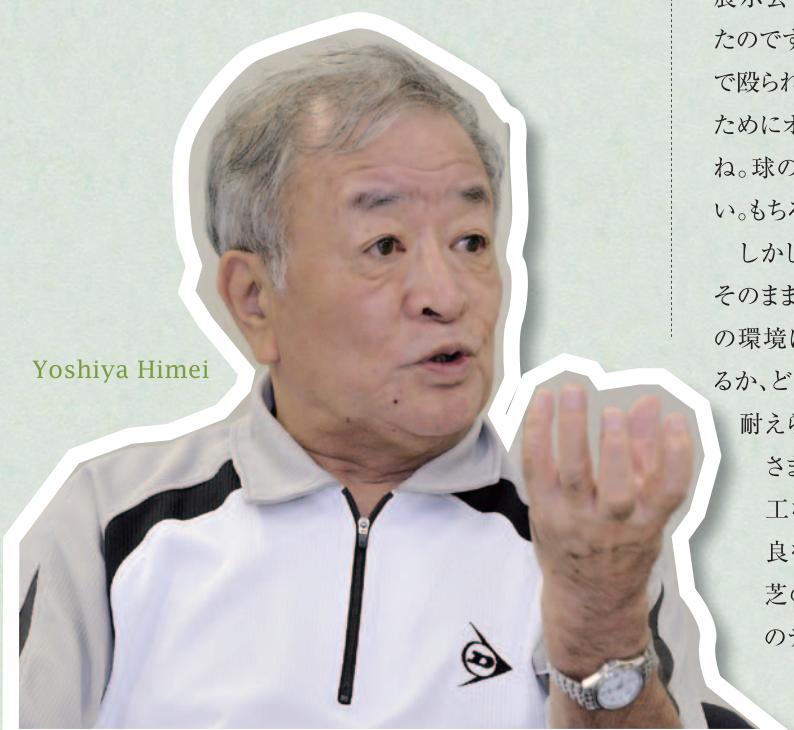
ハードとクレーのよさを 合わせ持つ。 オムニの魅力に 惚れ込みました。

オムニコートの発見者

姫井 義也 氏

●当時／住友ゴム工業(株)スポーツ事業部課長
(株)ダンロップテニス常務取締役

Yoshiya Himei



ワインブルトンのオムニコートでプレーするデビット・ロイド氏(オムニ社提供)

ケン・ローズウォール氏と住友ゴム関係者

ケン・ローズウォール氏と姫井氏



私

は1970年代の半ばにスポーツ事業部から「人工芝を使ったテニスコートを開発せよ」との命を受けました。そこで、サンプルを作っては会社の選手に試打を繰り返してもらいました。プレー性には手応えを感じていましたが、ひとつ大きな問題がありました。人工芝に水を撒くとどうしても表面にたまってしまい、いくら勾配をつけても水がはけないのです。これでは屋外では使えません。いくら工夫しても解決方法が見つからないまま開発に行き詰まってしまい、泣く泣くギブアップすることになりました。

ところが1981年に運命の出会いがありました。マイアミの展示会で、水はけのいい「砂入り人工芝」のサンプルを見つけたのです。見た瞬間、「これぞ求めていたコートだ」と、ハンマーで殴られたような衝撃を受けました。さっそく実物のコートを見るためにオーストラリアに飛びました。打ってみてびっくりしましたね。球のバウンドが土のコートにそっくりで、おまけに足に優しい。もちろん水はけもいい。一発でオムニに惚れ込みました。

しかし、日本での商品化には苦労しました。海外の方法をそのまま取り入れるだけでは、雨が多く、地盤が不安定な日本の環境に適したコートは作れません。下地をいかに平坦にするか、どうやって砂を均一に入れるか、夏の暑さや冬の寒さに耐えられるのか……。技術的な問題点をクリアするためにさまざまな環境のもとでテスト施工し、芝製造、加工、施工などさまざまな面で多くの協力会社と頭をひねって改良を加えてきました。そして最初は輸入していた人工芝の原糸も徐々に国産に切り替えていき、名実ともに日本のテニスコートとして定着するようになったのです。 ■

名門テニスクラブへ導入で 全国ブランドへと大きく成長。

芦屋国際ローンテニスクラブ（1982年）



1983

年1月、いよいよ「オムニコート」の正式発売の時を迎えるました。住友ゴムでは、施工品質を保つために「100%責任施工」の原則を導入。これまで日本では前例のない商品のため、知名度ゼロからのスタートでしたが、品質に対する絶対的な自信を背景に、最初期から名門クラブ的に目的を絞つて積極的な営業活動を行いました。そして、関西では「芦屋国際ローンテニスクラブ」、関東では「軽井沢プリンスホテル」という日本を代表するテニス施設への導入が決定。名門クラブでの評価を受けてブランド力が高まることを受け、全国各地でじわじわと施工実績を伸ばしました。オムニコートが全国的に注目を浴びるようになったのは、1985年のユニバーシアード神戸大会です。「学生のオリンピック」ともいわれるこの国際大会の会場にオムニコートが一気に16面も採用されたことで、知名度と評判が一気に高まったのです。この後、1989年の北海道国体の会場に採用されたのをはじめ、全国各地の国体の会場にも次々に採用されるようになりました。また、ソフトボールの競技場や野球場など、テニスコート以外の物件にも波及していきました。

こうして新規物件への導入に力を入れると同時に、既存の採用施設もこまめに訪問し、摩耗の状況をチェックし、メンテナンスや張り替えの提案も行いました。平行して、ダンロップスポーツに所属するテニス選手の協力を得て、オムニコートはもちろん、クレーコートやハードコートでの足の滑り、バウンドの変化などのデータを集め、各コートの特性の把握、プレー性の向上にも取り組みました。

やがて当社の商標である「オムニコート」は砂入り人工芝の代名詞となり、発売から30年を経た2013年現在、総施工実績は13,000面にも達しています。

Omnicourt NOW & THEN

Talk about Omnicourt

■ Omnicourtについて②

新たなテニスコート づくりに挑戦して テニス界を リードしてほしい。

オムニコートの初期の導入者

高木 陽子 氏

● 芦屋国際ローンテニスクラブ理事
日本女子テニス協会 副会長



Yoko Takagi



芦屋国際ローンテニスクラブは1955年に設立されました。そして、翌1956年に開催された兵庫国体では、このコートでテニス競技が行われています。全10面のコートのうち、4面は市民用、6面は会員用としていますが、今はすべて砂入り人工芝です。

当クラブに初めてオムニコートを導入したのは1982年です。もともと、ハードコート2面とアンツーカコートが8面あったんですが、ハードコートだった2面をオムニコートに改修したのです。新しいコートなので「テスト的に」ということで導入を決めたのですが、初めてプレーしたとき、ハードコートよりも足の滑りやボールのバウンドが自然だと感じて、プレーしていて楽しかったですね。ハードコートをオムニコートにしてから、この2面は順番待ちの方でいっぱいになるほどの人気でした。

8面あったアンツーカコートも、今は砂入り人工芝になっています。実は、1995年の阪神・淡路大震災のあとコートに仮設住宅が120軒建てられたんです。その5年後、テニスコートとして復旧することになった時にオムニコートにしてほしいと要望したんです。

オムニコートは足腰への衝撃が少ないので、シニア世代のプレーヤーにはベストだと思います。わたしも膝を悪くして、1年半テニスから遠ざかっていましたが、オムニなら膝にも負担がかからなくていいですね。レッスンがあると4時間ぐらい立ちっぱなしになりますが、ハードコートだとこうはいきません。今、ジュニア世代ではハードコート全盛ですが、雨が降ると使えなくなるので、少しかわいそうにも思います。

住友さんにはこれからも新しいテニスコートづくりに挑戦してもらって、テニス界を引っ張っていってもらいたいと思っています。

芦屋国際ローンテニスクラブ(1982年)



現在の芦屋国際ローンテニスクラブ(2012年)



「プレーヤーズ・ファースト」の 新たなるオムニコートへ。

名古屋高校テニスコート



●名古屋高校テニス部の主な戦績

- 2000年／インターハイ団体戦優勝
- 2002年／インターハイ団体戦優勝
- 2003年／インターハイ団体戦優勝
- 2005年／インターハイ団体戦3位
- 2006年／インターハイ団体戦3位
- 2009年／インターハイ団体戦準優勝
- 2010年／インターハイ団体戦優勝

この30年間のオムニコートの普及は、テニス愛好者の裾野の拡大、テニスコートに気軽にアクセスできる環境づくりに大きな影響を与えてきました。特に、雨の多い日本では、天候に左右されにくい砂入り人工芝は、選手の練習時間を確保したり、大会をスムーズに運営する上でも欠かせない施設として定着しています。

しかしその一方で、海外でテニスコートといえばハードコートが主流です。そのため、国際舞台での活躍をめざすトッププレーヤーはハードコートへの対応が不可欠。成長期にオムニコートに慣れてしまうと世界で戦うための技術が身につけられないのではないか、という指摘もあります。

オムニコートが30年という歴史を刻んだ今、私たちは改めて「プレーヤーズ・ファースト（選手が第一）」との考えに立ち戻り、プレーヤーの声に真摯の耳をかたむけながら、新時代にふさわしいテニスサーフェスづくりに取り組んでいきたいと考えています。

そこで、オムニコートの未来を考えるべく、高校硬式テニスの強豪・名古屋高校硬式テニス部を率いる宮尾英俊監督にインタビュー。選手育成の現場でのオムニコートの活用方法や、オムニコートのメリット＆デメリット、これからの進化の方向性などについてご提言をいただきました。■



Omnicourt NOW & THEN

Talk about Omnicourt

Omnicourtについて③

ハードコートのように、止まり、弾む。 新しいオムニを待望しています。

名古屋高校テニス部監督

宮尾 英俊 氏



使いこなす知識とメンテナンスが必要

私 がテニスを始めた1970年代は、テニスコートといえばクレーが主流。その後、オムニコートは国体会場でよく見かけるようになった印象があります。最初は「面白いコートだな」と思っていたんですが、やがて「オムニはケガをする」「捻挫する」という話を耳にするようになり、以来、慎重に付き合うようになりました。実はこれには理由があって、オムニコートは「砂のある時」と「砂がない時」で全く異質なコートになるんです。砂があるとズルズル滑るのに、砂がないと急にロックがかかる。私はこの特性を利用して、レシーブを構える時に部分的に砂をどけて、ファーストステップだけ滑らないように工夫したりしていました。しかし、コートを整備して砂を均一にしておけばケガの心配はありません。プレーヤーも指導者も、ちゃんと特性を知った上で使う必要があります。

トッププレーヤーのための性能開発を

た だ、課題もあります。初心者を中心に広く受け入れられているものの、競技志向のプレーヤーはハードコートの大会をめざす以上、ハードコートに対応できる練習が必要。それを見据えた商品開発が必要だと思います。具体的に期待するのは、足が止まる、ボールが弾む、といった「コートの性能」と「オムニに適したシューズ」の開発です。

競技者用コートでは、ボールのバウンドと足の止まりが重要です。砂入り人工芝は、踏ん張った時にやや滑るので股関節や内転筋に負担がかかりますし、ボールが弾みません。今、世界のテニスは「エッグボール」など、高いポイントで打つのが主流ですが、砂入り人工芝で育ったプレーヤーは低い弾道を好みます。そして、足の踏ん張りが効かないことと合わせて「弾まない=平面的なテニス」になっている。これが世界の潮流から置いていかれる理由です。

足の止まりに関しては、コートとシューズとの相性が大切なことで、人工芝だけではなくシューズも研究して欲しい。テニスでは制動の技術が本当に大事です。砂入り人工芝は制動距離が長すぎる。土はちょっと短い。ハードコートはもっと短い。

今は雪の上をノーマルタイヤで運転している感覚なので、スタッフレスタイヤに相当する「スタッドレスシューズ」が必要なのです。

芝の色もバリエーションにも期待

ま た、人工芝の色についてですが、あるテニスクラブに、周囲が緑色の青い砂入り人工芝コートがありました。グリーンのコートより、黄色のボールとのコントラストが鮮やかで非常に見やすい。色のバリエーションは増やした方がいいと思います。

しかし、私はオムニコートにすごく期待しているんですよ。日本は雨が多く、使用頻度が非常に高い国です。本校のように100人近く部員がいるテニス部では、とにかく雨でも練習がしたい。練習量を確保して技術を覚えるためにとても適したコートです。体育の授業でも使うので、本校ではオムニコートは1年中フル稼働しています。オムニコートがあれば、体育館をつくるのに近いイメージで授業時間を確保できる。学校でテニスを普及させるという指導者の立場からすれば、メリットの大きいコートだと思います。■

Hidetoshi Miyao



オムニのメンテナンスの目的は 砂を均一に保つこと。



宮尾先生

名古屋高校テニスコート

良い例 砂の量は、芝の先が見えるくらい。コート全体が均一に白っぽくなっています。



悪い例 芝先が見えないほど砂がたまり、真っ白になっている部分があります。



また、砂の量によってボールのバウンドが変わることもあり、プレーのパフォーマンスを十分に発揮できなくなる可能性があります。さらに、砂がない場所では芝が摩耗しやすく、コートの寿命が短くなる弊害もあります。つまり、コートにとつても選手にとつてもリスクが高まるのです。プレーヤーの安全のためにも、コート寿命を延ばすためにも、砂の量を一定に保つことが重要なのです。

容 易なメンテナンスはオムニコートの大きなメリットですが、メンテナンスが不要なわけではありません。名古屋高校テニス部監督の宮尾英俊先生は「オムニコートを安全かつ快適に使うためには、使用前後にメンテナンスをするのが理想的。何よりも重要なことは、砂を均一な状態に保つことです」と話します。

「テニスでは、どうしてもベースライン付近のプレーバーが多くなります。この付近で動いて止まる、動いて止まる、という動作を繰り返すうちに、砂がだんだん1か所に偏ってきます。これを放置するとコートの端の方に砂がたまり、中央付近は砂が薄くなりがちです。オムニは砂が多いと滑りやすく、逆に砂が少ないと足にブレーキがかかりやすいので、砂のムラが捻挫などのケガにつながりかねません」。(宮尾先生)

Omnicourt NOW & THEN

HOW TO KEEP COATS IN GOOD CONDITION

名古屋高校テニス部に学ぶ オムニコート整備法

オムニコートの整備は、「コートブラシでならす」作業が一般的ですが、砂が偏っていった状態から、いきなりコートブラシをかけても均一にするのは困難です。レーキや「てみ」で砂を集めると効率よく作業できます。



道具

TOOLS



■アルミ製レーキ
砂を集めるもの。木製より、薄い金属製のものが砂を集めやすい。



■プラスチック製てみ
集めた砂をくっつて、砂の少ないところに撒くためのもの。



■コートブラシ
砂をコート全体に均一にならすために使います。

オムニコート整備法



STEP
1

□ 砂を集める

芝が見えないほど砂がたまっている部分にレーキをかけ、1か所に砂を集めます。



STEP
2

□ 砂を撒く

集めた砂を「てみ」でくっつい、砂が減っているところに撒きます。



STEP
3

□ ならす

コート全体の砂の偏りがなくなったところで、コートブラシを渦巻き状にかけ、全体を均一になります。

SPECIAL MAINTENANCE

上記の日常整備のほかに、名古屋高校では、裏返した人工芝に重りをつけてトラクターで引くことでコート全体を整える整備を行うこともあります。



機械を使ったメンテナンス



これから

次世代オムニ始動!

トップ選手にも愛される 次世代オムニコートを開発中!



住友ゴム土山健康保険グラウンド内テニスコート

才

ムニコートはプレー性やメンテナンス性のよさで多くの市民プレイヤーに親しまれています。また「全天候型」という大きなメリットがあることから、特に雨が多い日本では、大会がスムーズ運営できるなどの点が評価されて広く普及しました。

一方で、競技志向の強いトッププレイヤーからは課題も指摘されています。ハードコートを主流とする競技テニスの世界的な潮流とギャップがあり、トップ選手の強化用コートとしては向いていないのではないか、という点です。権威ある国際大会の多くはハードコートで開催されていますが、砂入り人工芝コートはハードコートに比べてボールの弾みが弱く、球足が遅いため、国際舞台で通用する技術を磨くには適さないとの声があるのです。

当社では、そんな声に耳を傾け「足腰には優しいが球足が遅い」といった、これまでのオムニコートのイメージを打破する「30周年を記念した新しいオムニコート」の開発をスタートしました。

開発のポイントは「球足が速く、ハードコートに近いプレー性を実現したオムニコート」、そして「ボールの視認性のよいカラーを採用したオムニコート」です。

現在はまだ試作段階ですが、社内外のテニスプレイヤーたちの評価を活用しながら、プラッシュアップを図っています。

全てのテニスプレイヤーに愛されるコートへ。

30年目のオムニコートの進化にご期待ください。



■

Omnicourt NOW & THEN

次世代オムニコート開発

NEWS

世界で勝負できるオムニコートへ。 新しいチャレンジにご期待ください!

1

ハードコート仕様のオムニコート



高耐久オムニXP(PE)を使用し、ハードコートのような球足の速さと、高いバウンドの実現をめざすコートです。全米オープンのセンターコートをイメージして、ブルー×グリーンのツートンカラーに仕上げました。

2

ブルーのツートン仕様のオムニコート



標準オムニコート(PP)を使用し、コート内外でブルーの濃度を変えたツートンカラーで仕上げました。全豪オープン会場をイメージしたカラーリングに仕上げ、ボールの視認性も向上しています。

全てのプレーヤーが満足する進化したオムニに期待しています。

名古屋高校テニス部監督
宮尾英俊先生



現在、人工芝コートが全国でこれほど普及しているのは、市民プレーヤーの多くがオムニを望んでいるからです。オムニは膝に優しく、ラリーがつながる。つまりテニス本来の楽しさがたっぷり味わえるコートなんですね。また、硬式にも軟式にも対応でき、メンテナンスしやすく、雨が降ってもすぐに使えるので、大会運営にも非常に向いています。これまでテニスの普及に果たした役割は本当に大きいと思います。

60～70歳になっても安心してテニスが楽しめるという意味では本当に素晴らしい、テニスの裾野を支える市民プレーヤーにとってベストなコートといえるのではないでしょうか。

今後、トッププレーヤーも満足できるオムニコートが開発されれば、トッププレーヤーから初心者まで、ピラミッドの上から下まで全ての層をカバーできるようになりますね。これからのお進歩に期待しています。

クイズに答えて「オムニコート・オリジナルウォッチ」を当てよう!

クイズにご応募いただいた正解者の中から、
抽選で10名様に「オムニコート・オリジナルウォッチ」

プレゼント

【クイズ】下の○に入る数字を当ててください。

「オムニコート」は今年で発売○周年?

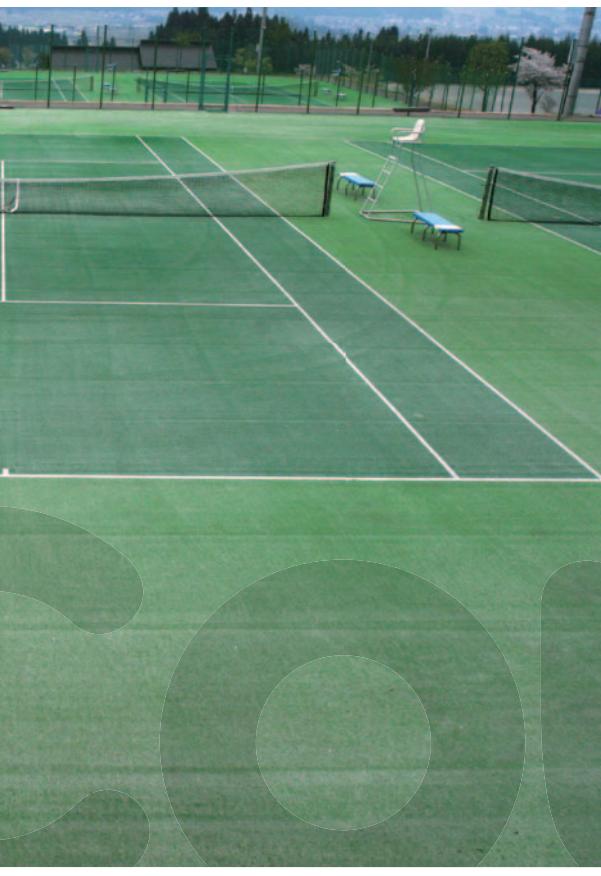
●個人情報の取扱について:ご送付いただいた個人情報は、プレゼント発送業務目的で利用させていただき、適切に管理させていただきます。なお、商品情報などをお知らせする場合に利用させていただく場合がありますので予めご了承ください。

- 応募期間 2013年3／31(日)→5／31(金)
- 応募方法 ハガキまたはFAXに、1.クイズの答、2.氏名、3.住所、4.年齢、5.連絡先、6.メールアドレスをご記入の上、下記宛までご応募ください。
- 送り先 〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町1-1-8 住友ゴム工業株式会社 人工芝事業
「オムニコートプレゼントクイズ」係
- F A X 03-5614-7287



*当選者の発表は、商品の発送をもってかえさせていただきます。

ダンロップブランドを通して、世界のテニスシーンで活躍する住友ゴムグループ。
その豊富な実績と経験から生まれた「オムニコート」は、
国体やインターハイ会場、学校などに数多く採用され今やテニスコートの代名詞となっています。



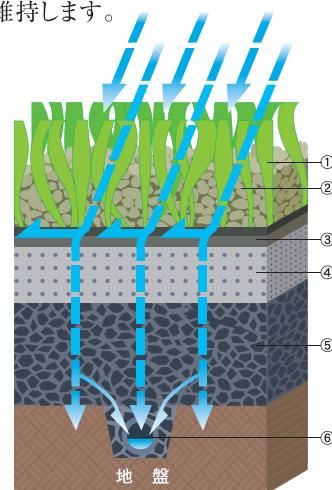
全天候砂入り人工芝 「オムニコート」の特長

■ オムニ芝と目砂の働きで、 優れたプレー性と安全性を実現。

ウェットでもドライでも適度な滑りと弾力性の保持が容易で、足腰への負担軽減を図る独自の構造を持っています。

■ 人にも自然にも優しい、 水切れの良さと透水性。

目砂が雨水の排水を促進し、水切りの手間を軽減。さらに透水タイプのオムニコートVPは、雨水を大地に還元し、土壌特性のバランスを維持します。



■ 透水性イメージ図

- ①耐候性ポリプロピレン芝
- ②目砂(特殊調整硅砂)
- ③透水性基布・パッキング
- ④透水性アスファルト層
- ⑤碎石路盤
- ⑥暗渠



大原運動公園テニスコート(新潟県)

豊富な実績で、 「オムニ」は テニスコートの 代名詞。

しなやかな人工芝と自然の砂との組み合わせから生まれた「オムニコート」は、自然なボールバウンドが得られるプレー性能と、足腰への負担を軽減する構造。しかも雨に強い全天候タイプで、雨後のプレーも短時間で再開できるなど、テニスサーフェスの主流として、数多くの施設で実績を重ねています。



オムニコート採用の岐阜メモリアルセンター・
長良川テニスプラザで開催された「カンガルーカップ2008」

■ 「オムニコート」の主な大会採用実績

国際大会

- アジアアマチュア選手権(神戸総合運動公園)
- ユニバーシアードKOBE'85(神戸総合運動公園) ●ITF第1回ワールドユースカップ(神戸総合運動公園) ●フェスピック神戸大会(神戸しあわせの村) ●JPTA国際ルネサンスカップ'90(長崎伊王島) ●世界国際ローンテニスIC大会(山中湖庭球クラブ) ●ITFワールドジュニアテニス(山中湖庭球クラブ) ●ユニバーシアード福岡'95練習コート(博多の森テニス場)

国内大会

- JTA全日本ジュニア選手権(北海道野幌総合運動公園) ●JTA全日本ベテラン(阪神・甲子園T.C) ●全日本社会人選手権・ソフトテニス(小瀬スポーツ公園) ●大学王座決定戦(東京都小金井スポーツ公園) ●RSK全国選抜ジュニア(備前市テニスセンター) ●天皇賜杯・皇后賜杯全日本総合選手権・ソフトテニス(岐阜メモリアル) ●JSTAソフトテニス世界選手権(岐阜メモリアル)

「オムニコート」は、ダンロップブランドでおなじみの住友ゴムグループから生まれたテニスサーフェスです。

経年変化が少ない 「オムニコートXP」の特長

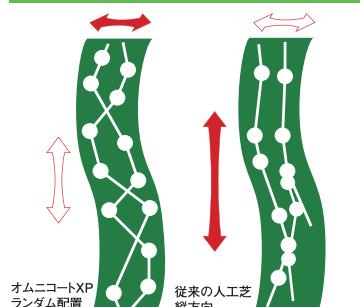
裂けにくい分子配列のヤーンで、耐久性をさらに向上。

耐久性の高いポリエチレンを、特殊製法により裂けにくい分子配列に加工。このヤーンを採用することで、耐久性が従来品の1.4倍(当社比)に向上しました。

コート面の硬化を抑え、優れたプレー性を長期間キープ。

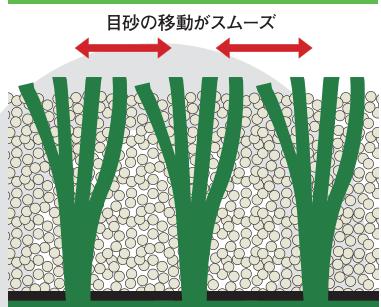
先割れしにくいヤーンを採用したことにより、目砂の適度な移動が維持されるので、コート面の硬化が起きにくく、優れたプレー性が長期間キープされます。に還元し、土壤特性のバランスを維持します。

オムニコートXP分子配向性のイメージ(図)



分子配列をランダムにした新構造でヤーンの耐久性がさらに向上。

オムニコートXPの断面イメージ(図)



先き割れのしにくい、新XPヤーンの採用で目砂の適度な移動が維持されますので、コート面の硬化が起こりにくくなりました。

より強靭で長寿命、高耐久仕様のオムニコートXP。

サッカーやラグビーなど、ハードで高頻度な使用にも耐えうるよう開発されたロングパイル人工芝「ハイブリッドターフXP」。その「XPヤーン」のDNAを受け継ぎ、テニスコート用に新たに開発されたのが「オムニコートXP」です。独自の特殊製法によりヤーンの分子配列を操作して、強く、裂けにくく、耐耗性に優れたパイルを実現。このヤーンを採用することで、耐久性が従来品の1.4倍(当社比)にまで向上。使用頻度の高いテニススクールのコートはもちろん、ハードユースが想定される多目的利用や学校校庭用途にも安心して導入できます。



「オムニコートXP」採用の高木学園女子高等学校

ヤーン／ポリプロピレンなどの原料から作られる、人工芝の原糸。
パイル／下地の布(基布)に植え付けられた人工芝ヤーン(葉茎)。



大原運動公園テニスコート(新潟県)

信頼の

高品質。

ダンロップ
テニスボール・アドバイザリースタッフ
松岡修造



DUNLOP
FORT

SRIXON

信頼に応える高品質なロングセラーボール。

半世紀以上に渡り、数多くの国内主要大会で使用され、どのボールも同じ性能と感覚でプレーができる均一性を極めた試合球。絶えず進化し、変わり続けるテニスの大きな流れの中で、高品質なロングセラーボールとして、いつの時代も変わることのないマイルドな打球感と優れた耐久性で、プレイヤーの信頼に応え続けます。

プレッシャーライズド テニスボール
フォート



2ヶ入缶／1ケース(30缶) オープン価格
カラー：イエロー
国際テニス連盟公認球／日本テニス協会公認球
MADE IN THAILAND



時代に応える軽快なスピードタイプボール。

国際大会を中心に使用されているスピード感を重視した試合球。エネルギーを低減したコア設計を採用し、コントロール性や打球感を犠牲にすることなく、スピード感と軽快な打球感を同時に実現。さらに耐摩耗性に優れた「フォート」と同素材のメルトンを使用し、高い耐久性を確保した軽快なスピードタイプボールです。

プレッシャーライズド テニスボール
スリクソン

2ヶ入缶／1ケース(30缶) オープン価格
カラー：イエロー
国際テニス連盟公認球／日本テニス協会公認球
MADE IN THAILAND



▲開缶時、開缶後は切り口で指をケガする恐れがありますので、缶のフタや缶の内側に直接手を触れないでください。

Dunlop/Srixon Tennis 公式 Facebook ページ
<https://www.facebook.com/Dunlop.Srixon.Tennis>



株式会社ダンロップスポーツマーケティング テニス営業本部 ● 東京 / 03-5463-7324 ● 大阪 / 06-6392-8500 <http://tennis.dunlop.co.jp>

■販売／株式会社 住ゴム産業

東日本地区／〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町1-1-8 TEL.03(5614)7194 FAX.03(5614)7287
中日本地区／〒465-0012 名古屋市中区千代田4-2-24 TEL.052(350)2122 FAX.052(350)1344
西日本地区／〒541-0059 大阪市中央区博労町4-6-10 TEL.06(6252)7620 FAX.06(6252)7810
四国地区／〒761-0101 高松市春日町1591-1 TEL.087(843)3200 FAX.087(843)3210
九州地区／〒812-0897 福岡市博多区半道橋1-2-3 TEL.092(474)1565 FAX.092(474)0136

■開発／住友ゴム工業株式会社

〒675-0011 加古川市野口町北野410-1
TEL.079(424)4837 FAX.079(426)0189